

## A 動き出した応急・緊急的な対策

**1 内郷地区の排水路の整備**  
豪雨時に慢性的に冠水被害が発生している内郷宮町金坂地内における冠水被害を緩和します。

**2 金坂川河川改良事業**  
豪雨時に浸水被害が発生している内郷宮町蛭子地内（普通河川金坂川周辺）における浸水被害を軽減します。

**3 垂直避難場所として内郷二中などの活用**  
平屋住宅にお住まいの方などが、緊急一時的な避難場所として活用できます。



**4 本市の広域性を踏まえた避難情報の発令**  
北部と南部などエリアを分けて避難情報を発令することで「じぶんごと化」への意識を高め、危機感を持ってもらいます。



**5 地域住民による臨時集積所設置の仕組み創設（全国初）**  
地域住民が主体となり、あらかじめ臨時集積所の設置場所を決定しておくことにより、災害翌日から開設可能に。



今後の被害軽減策として、内水対策浸水センサーの設置・危機管理型水位計・ライブカメラの増設・利用実態のない管理者不明橋の撤去・自主防災組織の強化などの対策を行う予定です。

これから、本格的な台風シーズンを迎えます。市では、市民の皆さんが安全に避難していただけるよう、早めに高齢者等避難・避難指示を発令しますので「災害対応のじぶんごと化」の意識を高め、早めの避難を心掛けてください。

逃げ遅れゼロ、災害死ゼロに向け、ともに自助・共助・公助の3つの力を高めていきましょう。

### 市民の皆さんへ

防災マップで地域の災害リスクや最寄りの避難所を確認し、避難ルートや家族との連絡方法などを事前に決めておきましょう。



### 防災マップを確認しよう

## 特集2

# 防災力向上

台風第13号からもうすぐ1年。教訓を生かし、次の災害に備える。



▲年度末報告の様子

昨年9月8日、内郷地区を中心に甚大な被害をもたらした台風第13号。今後も同規模、またはそれ以上の災害がいつ発生するかわかりません。

この災害経験を適切に分析し、あらゆる面から本市の防災力・災害対応力の向上につなげていくため、昨年10月、東北大学災害科学国際研究所や福島高専等の学術研究機関の専門家などで構成した災害検証チームを設置し、本年9月に最終報告書を公表する予定です。

頻発化・激甚化する自然災害から命と財産を守るため、全力で改善策・対応策に取り組んでいきます。

## Q なぜ、あのような災害が発生したのか？

### 外水氾濫

宮川および新川上流部では河川の流下能力を超える流量があり、外水氾濫が発生。

### 内水氾濫

9月8日の線状降水帯の影響により、内町や宮町などの一部の場所で雨水の排水が間に合わず、内水氾濫が発生。

### 土砂の堆積

9月6日の豪雨の影響により、河川や調整池などに土砂が堆積したことで、水の流れが悪くなっていた。

## + 災害検証から見えてきた課題

- 1 急激な豪雨により、避難のタイミングを失ってしまったこと。
- 2 市全域を対象とした避難情報の発令により、線状降水帯から離れた地域住民の危機感が失われた可能性があること。
- 3 内町や宮町では、垂直避難ができない平屋住宅が多く存在すること。
- 4 災害翌日から必要となる災害廃棄物の集積所が存在しないこと。
- 5 新型コロナウイルスの影響によってコミュニティの希薄化が急激に進行し、共助の基本となる近所付き合いが減少していたこと。

